



# (第6期)まつもと子ども未来委員会市内見学の報告

令和2年8月12日

第6期のまつもと子ども未来委員会市内見学を、令和2年8月3日(月)に実施しました。この日は、合計16人の委員のうち、13人の委員が出席しました。

## 1 旧開智学校



まず始めに、旧開智学校の校舎を訪問しました。旧開智学校は、約140年前に、当時の人々が「智を開いて立派な人になってほしい。」「より良い未来を創ってほしい。」との願いを込めて、造ったものです。

学芸員の遠藤さんに、旧開智学校にまつわるお話を聞きながら、自分たちが今通っている学校との違いにも着

目して校舎の見学をしました。

昔、実際に授業をしていた教室を見てみると、現在の教室とは違って、「狭い」、「黒板がない」、「扉が横に開かない」という気づきもありました。

また、現代の校則にあたる明治17年の開智学校規則「生徒心得」の中には、朝起きてから学校へ来るまでの家での振る舞いなども書かれていました。現代と違い、子ども全員が就学することができなかった時代の特徴であると教えていただきました。

## 2 教育長講話

旧開智学校の見学後は、市役所の大手事務所で、赤羽教育長と学校指導課の牧野先生にお話をいただきました。

赤羽教育長のお話の中では、「一人の声は弱いけれど、多数の声は大きく強くなる。何か声を上げるときは仲間を作ることが大きな一歩へ繋がる。」という大切なことを伝えていただきました。

また、実際に学帽について、生徒総会で議論をしたことがあるというご経験も聞くことができました。

後半は、牧野先生に、校則とはどのようにして決まっているのかということと、実際に校則を変えようとする場合、単なる思いつきだけではなく、他の人にも納得してもらうためのデータ集めが重要であり、具体的にどのような手順が必要になるのかをご説明いただきました。



校則変更の手順については、①賛同を得る、②理解者を集める、③原案を作るという過程を踏むことが必要であるということが分かりました。

また、牧野先生から、校則は見直しすることができるので、どうして必要になっているのか、理解を深めていってください、とのお言葉をいただきました。これからの学習にしっかり繋げていきましょう。

### 3 松本クリーンセンター



次に、クリーンセンター松本を訪問しました。

可燃ごみ・プラスチックごみ・破碎ごみの処分方法についてビデオと実際に処理されている場所を見ながら説明していただきました。破碎ごみは小さく砕かれた後、可燃ごみと一緒に焼却され、灰はエコトピア山田で埋め立て処分されることが分かりました。焼却の際に発生する排ガスは、ダイオキシンなどの有害物を排除して、無害な排ガスに処理し、煙突から排出されます。プラスチックごみは、リサイクル施設の中で、選別されて、最終的にさいころ状にしてフィルムに巻かれ、リサイクル商品としてベンチなどに生まれ変わります。

また、焼却の際に発生する熱を利用して発電を行い、隣接するラウラ松本やクリーンセンター内の電力をまかない、残りは電力会社に売電しているということも知ることができました。

### 4 エコトピア山田

市内見学の最後に、最終処分場エコトピア山田を見学しました。

エコトピア山田は、ガラスや陶器などの埋め立てごみ、電池や蛍光灯、クリーンセンターで排出された灰などを処理する施設です。

電池と水銀を除去する処理をした蛍光灯は、リサイクル業者へ引き渡されます。電池の金属はコンクリートの中に入れる鉄心、蛍光灯のガラスはセメントに混ぜたり、断熱材などにリサイクルされます。

埋め立てごみは、3メートル、灰は2.5メートルの上に50センチの土を重ねていく「サンドイッチセル方式」という方法で埋め立てていきます。数箇所には塩ビパイプを煙突のように埋めて、においや有害ガスの発生はないかなどを確認するために使用しているとのことでした。

また、来年度からは一時受け入れを中止し、数年かけて土地を整地しなおして、受け入れ可能年数を増やしていくために新しい施設が造られます。



次回委員会は、8月23日（日）に午後1時30分から中央図書館で開催します。

駐車場が少ないため、保護者の皆様のご配慮をお願いします。